

府中町ふるさと歴史散策〔第44回〕

古代の山陽道と下岡田遺跡①

しもおかだ

古代において中央と地方を結ぶ交通網と情報伝達手段（駅伝制）は、早くから整備されていたが、完成をみるのは大宝令が施行された大宝二年（702年）頃といわれている。駅伝制は官道を往来する公務を負った官人のために、駅家が置かれ、常時二十匹の馬が準備されることとなっていた。これは、隣国の唐の制度を取り入れたものであった。唐では制度の起こりは戦国時代にすでにあったといわれているから、今から2400年前の相当古くからあった制度で、目的地まで馬を乗り継いで行く単なる交通機能を持つだけでなく、軍事的な機能をも持っており、秦の始皇帝の天下統一で広大な領土を統治するための手段として整備されていた。

さて、安芸国には九州太宰府と都を結ぶ我が国唯一の大路の山陽道が通っていた。駅家は普通三十里（当時の1里は約540m

のため約16kmとなる）ごとに置かれたが、山陽道の場合は約10kmごとに設置された。駅間距離が短縮されたのは、国内最大の官道としての他の官道と比べて数倍の重要性があったからである。この山陽道は外国からやってきた使節の入京路でもあったため、国の威信を示す意思もあって、備後、安芸、周防、長門の駅館は、建物には瓦が葺かれ、白壁をめぐらす豪華なものであった。安芸国内には13の駅があったとされており、国府のあった府中町には「安芸駅」が、府中町の周辺では「荒山駅」が広島市安芸区瀬野・中野・畑賀一帯の地に、「伴部駅」が安佐南区の伴に、「大町駅」が佐伯区利松付近に比定されている。確実に駅家跡と考えられる遺跡の発掘例が少なく、府中町北西の下岡田遺跡が発見され、調査された。下岡田遺跡は石井城二丁目から城ヶ丘にかけてのところに

ある。広島市内から通ずるバスの「城ヶ丘入口」の停留所から城ヶ丘住宅地に通じる道の傍にあり、町の文化財案内看板が設置されている。

府中町文化財保護審議会議長

横田 禎昭

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎286-3272



文化財案内看板「下岡田遺跡」

人の動き

6月1日現在(前月比)

人口	51,953(+83)
男	25,549(+30)
女	26,404(+53)
世帯	21,472(+53)
面積	10.45km ²

町の花
つばき

町の木
くすのき

お悔やみ

（敬称略）

氏名（年齢）	住所	死亡日
増宮ヨシエ（84）	本町三丁目	5/1
益田 定（88）	八幡二丁目	5/6
和田 節子（70）	瀬戸ハイム二丁目	5/8
児玉マサエ（83）	青崎中	5/11
梶川 進（89）	城ヶ丘	5/12
下村 晃（47）	宮の町四丁目	5/15
廣瀬 徳雄（87）	柳ヶ丘	5/18
木曾 隆人（64）	柳ヶ丘	5/22
長尾健太郎（9）	桃山二丁目	5/24
大橋 千代（96）	浜田二丁目	5/23
細川 八千代（81）	大須一丁目	5/25
藤川 正（83）	鶴江二丁目	5/25
福田ユリエ（78）	石井城二丁目	5/27
濱本アヤコ（81）	浜田三丁目	5/28

※この「お悔やみ」欄には、「町広報紙掲載申出書」の提出があった場合のみ掲載しています。

問い合わせ

地域振興課広報公聴担当

☎286-3127

「広報ふちゅう」等のカセットテープ版・点字版のご案内

「広報ふちゅう」「議会だより」「ふれあい府中（社協だより）」のカセットテープ版・点字版を、希望者に無料で貸し出し・提供しています。

あなたのまわりの視覚に障害のある方に是非お知らせください。

申し込み・問い合わせ 府中町社会福祉協議会 ☎285-7278 FAX287-3467

